

—第61号—

発行 国際禅道場  
鳳儀山聖護寺護持会

責任者 宮本雄一  
☎ 0968-25-4791



題字 楠崎一光老師

水月菴  
毘廬海上起波瀾  
江月松風永夜寒  
箇々面前觀自在  
人々一座補陀山  
大智禪師偈頌

# 歸家穩坐

瑞應寺住職  
聖護寺兼務住職

金岡潔宗

花まつり(四月八日のお釈迦様の降誕の日)が終わったところから瑞應寺瑞雲閣の軒下には、ツバメが飛んで来ています。

ツバメは天敵のカラスをさけるため、あえて人の近くで巣を作るのだそうです。

また昔からツバメが家に巣を作ると縁起がいいと言われています。それは、春になると海を渡ってきて、子育てを始める習性が、新しい始まりや家が安泰であることを連想し、ツバメが巣を作るとは、この場所が安全であり安心する場所であるということ、家庭が平穏である証とされ、吉兆の象徴として親しまれているからです。

そんなツバメが巣作りを始めた様子を見ながら「また今年も来てくれたんだなあ」と嬉しく思い、無事に子育てをして巣立つようにと願わずにはいられません。

「帰家穩坐」という禅語があります。江戸時代に曹洞宗の学僧(学問に優れた僧)で指月慧印禪師という方がいました。ある人に「休みとは何でしょうか」と質問され、「家郷に向

かうが如し」と答えました。「家郷に向かうが如し」とは、我が家に帰り、心を落ち着かせて休むということ、です。休むというのは、何もしないで怠けることではありません。

我が家に帰ると言うことは、自分が自分に帰ることです。自分を見つめること、自己究明に取り組むことが、本当の休みのことです。

今年のゴールデンウィークは、有給休暇を利用すれば、八連休になります。皆さんは、どのように過ごされますか。いろんな所へ出かける方もおられるでしょう。しかし休み明けに仕事に差し支えるようなことでは、休みになりません。自分を見つめる時間も必要ではないでしょうか。

鎌倉時代に大本山總持寺を開かれた瑩山禪師の説かれた「坐禪用心記」には、「仏の言く、聞思は猶お門外に処するが如く、坐禪は正に家に還つて穩坐す」とお示しになられています。意味は、お釈迦様の教えを聞いた、頭で考えたりするだけでは、仏の道に入ったとは言えません。「家に帰って穏やかに坐禪をして自己を見つめることだ」というのです。

道元禪師も「仏道をならふといは自己をならふなり」「坐禪は自己の正体なり」と説かれていますように、坐禪こそがそのまま真実の休みなのです。

大智禪師が菊池武重公に示された『十二時法語』の最初には「仏祖の正伝は、ただ坐にて候。坐禪ともうすは、手をくみ足をもくみ、身をもゆがめず、正しく持せたまいて、心に何ごともおもうことなく、たとい仏法なりとも心にかけてずして御座候べし」とあります。十二時とは、今の二十四時間のことです。一日二十四時間途切れのない行持が、仏道修行です。その心得を示されたのが『十二時法語』で、特に、最初にお示しのように坐禪について説かれています。

このように、お釈迦様から伝わった正しい仏法とは、坐禪を実践することなのです。私たちは、この慌ただしい世の中にあつて、本来の家に帰り、心落ち着け自己を振り返り、穏やかに坐ることが必要ではないでしょうか。

『十二時法語』については、昨年九月に改訂版を再発行した「大智禪師山居の郷」に書かれています。瑞應寺のホームページに聖護寺のページを掲載しておりますので、ご覧ください。

### 大智禪師終焉の地

(雲仙・加寿佐)を訪ねて

賀来 宏

去る十二月十九日、二十日、聖護寺護持会役員会で、大智禪師の終焉の地のお墓参りが叶いました。十二名の役員が菊池から長洲フェリー乗り場を目指し、高原・多比良港迄フェリーの旅でした。好天で、波は穏やかでデッキのベンチで、聳え立つ雲仙普賢岳を眺めながら、大智禪



師も陸路でなければ、この海を渡って島原へ行かれたのだなと感慨に浸っていたら、カモメの群れが餌を求めて泣き叫ぶ声で現実に戻されました。多比良からは一路国立公園雲仙仁田峠を目指しました。程無く、雲仙ホテル街がありました。我が国のホテルやゴルフ場では初期のもので、当時の風格が残っていました。仁田峠のケープブルカー乗り場が揃いました。ケープブルカー乗り場横に大智禪師の温泉嶽地獄句碑と村上素道老師による解説の碑がありました。吉谷和尚様が説明してくださ

いました。地獄天堂一念中 地獄天堂一念の中。回向一念本来空 回向す一念本来空。空空寂寂非他物 空空寂寂他物に非。 富士松青躑躅紅 富士松青く、躑躅(つづし)紅なり。

仁田峠を下る途中、キリシタン転向処刑場地獄(正式には大叫喚地獄)を通りました。その名の通り、けたたましい轟音と独特の臭いを出しながら、熱湯と硫黄が噴き出る様は地獄そのものでした。昼食を済ませ、雲仙ビードロ美術館を見学しました。世界各地の各時代のビードロが収集してありました。目も眩むガラス・グラスの類は文化財級で貴重な経験が出来ました。続いて、巖吼寺へ参拝しました。大智禪師

は、有馬公の勸請により、加津佐の地に水月庵・円通寺を創建され、同地で示寂(死去)されました。円通寺は島原の乱後廃絶してしまいました。雲仙愚白和尚が大智禪師終焉の地である岩戸山に巖吼庵を建て、昭和十七年に庵号を補陀山巖吼寺と改められました。お寺の更に上の石段の奥には大智禪師が坐禅を組まれた石舞台があり、海を鳥瞰できる絶景の場所ですが、当日は途中の道が塞がって、残念ながら登れませんでした。方丈様のご案内で説明を受け、お墓の場所へと移動しました。1km程のところは昔のお寺の礎石があり、墓石がありました。静かにひっそりとした感じで佇んでおられました。皆は各人各様の思いで、お祈りされていました。大智禪師様、やっとな、お会いすることが出来ました!! とのお声かけが聞こえた気が



補陀山 巖吼寺

しました。すぐ横には巖吼寺の檀家様の所有で堂内には道元禪師様のお木像と石仏が祀られており、大智様はお祀りされていないそうです。次いで、有馬キリシタン遺産記念館を見学しました。キリシタン弾圧と島原・天草一揆が学習できた原城跡を出て小浜温泉へと向かいました。有馬キリシタン大名が支配した南島原・加寿佐の街並みを抜けながら、大智禪師も何回となく通られた



墓石の前で



大智禪師の墓石口

道だと思えば、もっと立ち止まって居たいと離れがたい気がした加寿佐の街でした。宿では十五名の忘年会(懇親会)でした。ご馳走も旨く、お湯も立派な温泉でした。気心の知れた仲間同士の久しぶりの旅行は最高でした。翌日は逆方向で、長洲港に降り、目と鼻の距離の玉名市の紫陽山 廣福禪寺に参拝しました。大智禪師が菊池に來られる前に開山されたお寺で、聖護寺を降りて、加寿佐へ向かわれるまでの間もおられたお寺です。大智禪師が着用された袈裟や書等が保存してありましたが、国指定の重要文化財である道元禪師より六代目の傳衣は、この時期は



毎年、熊本県立博物館で展示中で拝見できませんでした。

二日間の短い旅でしたが、大智禪師様を深く・温かく感じての中身のいっぱい詰まった護持会旅行でした。大智禪師様ありがとうございました。合掌

**\*附記\***

今回の護持会旅行にあたり、真っ先に相談しましたのは、島原・雲仙市小浜町で建設業他広く起業をされておられる宅島寿雄様でした。小生の愚妻の無二の親友である時子さんの御主人であり、篤志家で信心深く、自宅の広大な庭には聖観音の大立像が建ててあり、普賢岳爆発後は「折りの里」等の折りの場を創建され、聖護寺にも数回上山されています。今回の旅行に際し、宅島氏と奥様は旅の順序から、御自身経営の雲仙ビードロ美術館や温泉旅館「寿楽」を提供頂き、その上ビードロ美術館長の生駒氏に、以後雲仙各所の道案内を頂きました。お陰様で満足のいく旅となりましたことを厚く御礼申し上げます。

(宮本記)

**聖護寺日曜参禅会**

護持会 山本啓三

聖護寺日曜参禅会について簡単に紹介させていただきます。

「コーン」「コーン」「コーン」と木版を叩く音の合図で皆様揃って僧堂(坐禅堂)に向かいます。

9:30 坐禅が始まります。

僧堂には私達は入口の左側を左足から入り、老師は右側を入られます。

堂長が坐っておられる方々の検単巡堂後僧堂鐘三声で坐禅を始めます。

10:05 経行鐘二声で坐禅を解き印金一声で経行(坐禅の合間に心身を整える為に半歩ずつゆつくり歩く)を始めます。

10:15 僧堂鐘三声で再び坐禅を始めます。

10:35 日中鐘(梵鐘)十声の後10:45 放禅鐘(僧堂鐘)一声で坐禅を解きます。

11:00 木版三会の合図で老師が本堂で宗旨の要点を説き示す提唱が行われます。

毎回10数名の方々が参加して、坐禅後庫裏で皆様とお昼ご飯を頂きながらいろんな世間話をするのも楽しみにして来山されています。

初めての方もどしどし参加して下さい。曹洞宗妙本寺吉老老師が、その都度丁寧にご指導して下さいます。

開催日時  
毎月1回第3日曜日9:30からです。

**聖護寺に感謝**

山野由紀

鳳来の村に嫁ぐより、ゲスの木に登れ。なんて言われても、嫁いでしまつて40年余り、色々な事がありました。そりや自然の中で働いて、過酷な日々も、泣きたい事もありました。でも考えてみれば、聖護寺で世界中から來られた修行の方々や英語まじりの熊本弁で交流したり、偉い人とバカ話したり、若い修行僧が生きる厳しい世界を垣間見たり、聖護寺を旅立つて行った人達に思いを馳せてみたり、こんなすごい経験めつたに出来ない。ここに嫁いで来たから出来た事、本当にありがたい。感謝です。先日、前に聖護寺にいらした大樹さんが、可愛いお嫁さんと一緒に会いに来てくれました。厳しい修行中でも優しい人だったけど、更に優しく、少しふっくらして、とても頼もしく見えました。産んでもいないけど、息子が帰って来た様で、嬉しくてホッとしました。笑顔の素敵なお嫁さんとこれからの日々、幸せに過ごしてほしいと心から思いました。本当の幸せって、お金とか土地じゃなく、人との繋がりがやさしさ、人を想う気持ちなのかもしれないと、私はここで、この歳で思いました。私はここに嫁いで良かったー。この村が大好きだよ。私は幸せだー。と叫びましょーか、ゲスの木のとっぺんで…。

### 菊池唯識オンライン講話会

菊池唯識講話会事務局 東 信 彰

奈良薬師寺の松久保秀胤長膺様による菊池唯識講話会は2009年1月に始まり、2025年2月までに132回を重ねてきました。この間、松久保御老師は奈良薬師寺、あるいは住職を務められる長野県の蓼科山聖光寺から単身で菊池まで来られていました。

しかし今年で98歳になられる御老師が菊池まで来られることがいよいよ困難となり、昨年3月の第133回からはインターネットを利用したオンラインで行われることとなりました。

松久保了善様がJitsi Meet (ジッツイ・ミート) というオープンソース Web 会議システムを使ってオンラインの会議室を準備してくださったのでそこに当方のパソコンでアクセスし、その動画映像をプロジェクターでスクリーンに投影して聴講します。また、聴講している教室の動画画像を奈良にお送りし聴講生の反応を御老師にご覧頂きます。

会場のようなすなるべく鮮明な画像でお伝えするべく、ウェブカメラには高解像度のソニー a 71V を使用しました。

会場には、プロジェクター、スクリーンが常設してあり、音響も完備している菊池市中央公民館 (キクロス) の視聴覚室を利用しました。

下記の通り、現在までにオンラインによる唯識講話会は9回実施されました。

令和7年3月23日 (菊池唯識講話会通算133回目)、4月27日 (134回)、6月22日 (135回)、7月27日 (136回)、9月28日 (137回)、10月26日 (138回)、11月23日 (139回) 12月17日 (140回) 令和8年2月22日 (141回)

いずれの回も熱心な聴講生の方々が出席されています。

オンライン会議のイロハをご指導くださり、講義当日の運営をサポートして頂いた松久保了善様、まゆ様、蓼科山聖光寺発の講義をサポートして頂いた聖光寺小松様に厚く御礼申し上げます。貴重な唯識字講義を拝聴させて頂いております。松久保秀胤長膺様、本当に有り難うございます!!

参禅会  
毎月第三日曜日 (原則)  
変更の時がありますので、前日に問い合わせください。

連絡先 藤本久継  
090・4587・0456

菊池唯識講話会  
毎月第四日曜日 (原則)  
於 生涯学習センター  
中央公民館  
(菊池市隈府八七二)

連絡先 東 信彰  
0968・25・2569

〒八六一・一六七  
熊本県菊池市班蛇口鳳来二〇三四  
鳳儀山 聖護寺  
0968・25・4791

### 春季法要のご案内

下記により春季法要を行います。ご多用中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数のご参詣を賜りますようご案内申し上げます。

記

- 日時 令和8年5月24日 (日)  
午前9時30分 受付開始  
〃 10時 巡拝  
〃 11時 法要  
〃 11時30分 法話  
〃 12時30分 会食

#### 2. 場所 鳳儀山聖護寺

※当日は、午前9時よりタクシー (無料) が「やまびこ体育館特設駐車場」発 → 聖護寺着で往復します。



聖護寺境内のシャクナゲ・つつじ

〒861・1331  
熊本県菊池市隈府七七五  
宮本内  
聖護寺護持会事務局  
電話 (〇九六八) 二五・四七九一

### 編集後記

最近の各地に於ける地震報道には聊か不穏な気持ち拭えない。今後の日本の将来に、これまでに以上に問題を抱えることがないように、不断の備えが必要と考えます。

聖護寺も弥生から早月へと進み、石楠花・躑躅の季節が訪れていきます。  
春の法要 (別掲) に多くの皆様の御上山を心からお待ち申し上げます。  
(雄)